

令和7年度 公益財団法人山梨県スポーツ協会事業報告書

事業報告

事業概要

本協会は、県民のスポーツニーズを的確にとらえ、県民一人ひとりがスポーツに親しめるよう、スポーツの振興を図っていく公益財団法人としての使命を果たすため経営計画や山梨県スポーツ協会スポーツ推進計画に基づき、加盟団体との連携を一層強化しながら「スポーツ協会の運営」、「スポーツの推進」、「利用環境・効率の向上」を三つの柱として次の事業を行った。

事業実施状況

I スポーツ協会の運営

1 理事会、評議員会等の運営

- | | | |
|--------------------------|--|---------------|
| (1) 理事会 | 第1回(通常) | 令和7年 6月 5日(木) |
| | 第2回(通常) | 令和7年 8月 8日(金) |
| | 第3回(通常) | 令和8年 3月19日(木) |
| (2) 評議員会 | 定 時 | 令和7年 6月20日(金) |
| (3) 総務委員会 | 第1回 | 令和7年 5月22日(木) |
| | 第2回 | 令和7年 7月24日(木) |
| | 第3回 | 令和8年 3月 5日(木) |
| (4) 加盟団体関係会議 | | |
| 市町村体育・スポーツ協会事務局長・事務担当者会議 | | 令和7年 4月10日(木) |
| 加盟競技団体・学校体育団体理事長会議 | | 令和7年 4月10日(木) |
| (5) 山梨県知事等に対する要望 | | |
| 令和7年9月16日(火) | 安全なスポーツ環境の整備、県有スポーツ施設を持続可能にする
取り組み及び次世代につながるスポーツの推進のために | |

2 事務局の運営

- (1) スポーツ庁が、スポーツ団体における適切な組織運営を行う上での原則・規範として策定した「ガバナンスコード」について、本協会においても適用し、コンプライアンスの強化とガバナンスの確保に取り組んだ。
- (2) 本協会が実施する事業推進のため、自主財源の確保に努めた。
 - ア 賛助会員の加入募集
 - イ 寄附金(免税寄附金)の募集及び制度の活用促進
- (3) 総合的人材育成システムの運用

「人材育成基本方針」に基づき、職員の資質向上のため、研修会の開催や各種講習会及び資格取得研修への参加等、総合的な人材育成を行うとともに、職員倫理やコンプライアンスの徹底、向上を図った。
- (4) 働き方改革への取り組み

年休5日付与の義務化、就業管理システムによる適正な労働時間の把握、業務の効率化による時間外勤務の削減については引き続き実施し、令和3年4月から適用となった正規職員と非正規職員との休暇制度等の格差を無くすための同一労働同一賃金の働き方改革に取

り組み、職員のワーク・ライフ・バランスの推進を図った。

（公益目的事業）

Ⅱ スポーツの推進

県民誰もがスポーツに親しみ、活力ある地域社会を実現していくために次のとおり事業を進めた。

1 専門委員会の開催

スポーツの推進を図る上で必要な事項について検討するため、専門委員会を開催した。

(1) スポーツ振興委員会	第1回	令和7年 7月 2日(水)
	第2回	令和7年11月 5日(水)
	第3回	令和8年 3月 4日(水)
(2) 広報委員会	第1回	令和7年 5月16日(金)
	第2回	令和7年11月21日(金)
	第3回	令和8年 2月27日(金)
(3) スポーツ医・科学委員会	第1回	令和7年 7月 3日(木)
	第2回	令和7年11月 6日(木)
	第3回	令和8年 3月 5日(木)
(4) 境川自転車競技場運営委員会	第1回	令和7年 5月 9日(金)
	第2回	令和8年 3月 2日(月)
(5) スポーツ少年団常任委員会	第1回	令和7年 5月16日(金)
	第2回	令和7年 6月26日(木)
	第3回	令和7年10月17日(金)
	第4回	令和8年 2月27日(金)

2 子どものスポーツ機会の充実

未来を担う子どもたちの健全な発育、発達、育成に資するため「スポーツ少年団組織の育成」と「スポーツの巡回指導(スポーツキャラバン事業)」に取り組んだ。

(1) スポーツ少年団の育成

ア スポーツ少年団組織の活性化

スポーツ少年団組織の活性化を図るため、理念と意義の浸透、指導者養成と資質の向上、幼児加入に対する取り組みについて、内容、方法を検討した。

(ア) 指導者協議会評議員会の開催

令和7年 5月14日(水) 小瀬スポーツ公園武道館第1会議室

(イ) アクティブ・チャイルド・プログラムの普及と団活動への浸透

子どもたちが楽しみながらからだを動かすことのできる「アクティブ・チャイルド・プログラム」の普及・浸透を図るため、研修会を開催した。

令和7年 7月12日(土) 小瀬スポーツ公園武道館アリーナ 参加者17人

(ウ) Mirai Projectの開催

スポーツ少年団の喫緊の課題である団員減少対策及び財源の確保、それに附随した事業の見直しなどを集中的に検討し、スポーツ少年団の普及及び活性化を図ることを目

的にミーティングを5回開催した。

＜新規事業＞「地域のスポーツ少年団で継続してスポーツに触れる機会を創出する」

令和7年10月28日(火) ベースボール5 参加者80人

イ 団員交流事業の促進

特定の種目に偏らず、様々なスポーツを体験させ運動感覚を養うとともに、野外活動や文化活動等をとおして創造性や協調性を育むことを目的に、各種大会の開催及び助成を行うとともに、各種中央大会へ団員及び指導者の派遣を行った。

(ア) 県内交流事業

a 第47回山梨県スポーツ少年大会の開催

令和7年 8月 1日(金)から3日(日) 八ヶ岳少年自然の家

参加者 指導者2人・団員35人

なお、本大会は第56回関東ブロックスポーツ少年大会と同時期に開催した。

b 第18回山梨県スポーツ少年団フェスティバルの開催

令和7年 4月12日(土) 小瀬スポーツ公園 武道館 参加者11団100人

c 第44回関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会予選会の開催

軟式野球 令和7年 5月31日(土)から 6月 8日(日)

大月市営野球場ほか

バレーボール 令和7年 6月22日(日)から29日(日)

甲斐市敷島体育館ほか

ミニバスケットボール 令和7年 6月 8日(日)から22日(日) 鐘山体育館ほか

バドミントン 令和7年 6月 8日(日) 甲州市勝沼体育館

空手道 令和7年 4月27日(日) 小瀬スポーツ公園武道館

d エンジョイ！スポーツフェスティバル交流大会予選会の開催

バレーボール 令和7年10月12日(日)から19日(日)

笛吹市若彦路体育館ほか

剣道 令和7年11月15日(土) 小瀬スポーツ公園武道館アリーナ

(イ) 県外交流事業

a 第56回関東ブロックスポーツ少年大会の開催・派遣

令和7年 8月 1日(金)から3日(日) 山梨県八ヶ岳少年自然の家

山梨市スポーツ少年団から 団員4人が参加(関東:指導者6人・団員28人)

なお、本大会は第47回山梨県スポーツ少年大会と同時期に開催

b JAPAN GAMES JUNIOR & YOUTH(旧全国スポーツ少年大会)への派遣

令和7年 7月31日(木)から8月 3日(日) 佐賀県

参加指導者・団員なし

c 第44回関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会への派遣 埼玉県

軟式野球 令和7年 7月12日(土)から13日(日)

バレーボール、ミニバスケットボール、バドミントン、空手道

令和7年 7月26日(土)から27日(日) 派遣指導者15・団員98人

d エンジョイ！スポーツフェスティバル交流大会への派遣

第47回 軟式野球 令和7年 8月 8日(金)から11日(月・祝) 三重県

山梨県からの派遣なし

- 第23回 バレーボール 令和7年12月25日(木)から28日(日) 京都府
(女子)派遣指導者3人、団員10人
- 第48回 剣道 令和8年 3月27日(金)から29日(日) 富山県
派遣指導者1人、団員7人

ウ 市町村スポーツ少年団の組織強化

スポーツ少年団組織の指導体制の強化と組織の資質向上を目指し、その機能を充実させるため、団員交流や単位団の活性化を図った。

(ア) スポーツ少年団市町村役員・職員会議の開催

スポーツ少年団の理念と意義や単位団の活動のあり方等への理解を深めてもらうとともに、各市町村の課題や情報を共有することによる連携強化を図るため、役員・職員会議を開催した。

令和8年 2月18日(水) 小瀬スポーツ公園武道館第1会議室

(イ) 県内スポーツ少年団交流事業への助成

県内市町村スポーツ少年団において団員の交流を図る事業に対し助成した。

(ウ) 県外スポーツ少年団交流事業への助成

近隣の県外団員との交流を促進し、団活動の活発化を図る事業に対し助成した。

令和7年 7月26日(土)～27日(日) 甲州市

(エ) 全国規模競技大会参加団員への助成

家庭の経済状況によらず、すべてのスポーツ少年団員が全国大会を目指すことができる環境を整えるため、参加にかかる交通費及び宿泊費の助成を計画したが、申請がなかったため助成は行わなかった。

(オ) 指導者育成事業の委託

指導者の資質向上並びに指導者組織の整備拡充を図るための事業を委託した。

市(甲府市、韮崎市、甲斐市、笛吹市、上野原市、甲州市、中央市)
町(昭和町)

(2) スポーツ機会の提供

子どもたちが身体活動の持つ楽しさを体験し、自発的に運動ができるよう地域の小学校や児童館などに指導者を派遣する事業として「子どもスポーツキャラバン」を計画していたが申し込みがなかったため実施には至らなかった。

3 生涯スポーツ活動の推進

競技団体、市町村体育・スポーツ協会や山梨県スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ等のスポーツ関係団体と連携し、県民一人ひとりが気軽にスポーツに親しむ機会を拡充し提供した。

(1) スポーツ大会及びスポーツイベントの開催・誘致・助成

ア 山梨県体育祭りの開催

県民一人ひとりがスポーツに親しみ、豊かなスポーツライフの創造と地域のスポーツ振興を図り、明るく豊かで活力あるふるさとづくりを目的に開催した。

(ア) 令和7年度実行委員会総会の開催(第78回夏秋季大会・第79回冬季大会)

令和7年 4月28日(月) 小瀬スポーツ公園体育館メインアリーナ

(イ) 第78回夏季大会

カヌー競技	令和7年 5月25日(日)	精進湖カヌー競技場	雨天中止
ローイング競技	令和7年 6月14日(土)	河口湖漕艇場	
セーリング競技	令和7年 6月15日(日)	山中湖村ヨットハーバー沖	
少林寺拳法競技	令和7年 6月29日(日)	小瀬スポーツ公園武道館	
水泳競技	令和7年 8月24日(日)	小瀬スポーツ公園水泳場	

(ウ) 第78回秋季大会

組合せ抽選会 令和7年 7月28日(月)

中心会期(44競技) 令和7年 9月13日(土)～23日(火・祝)

小瀬スポーツ公園他

総合開会式 令和7年 9月13日(土) 小瀬スポーツ公園武道館アリーナ

総合閉会式 令和7年 9月23日(火・祝) 小瀬スポーツ公園武道館アリーナ

(エ) 第79回冬季大会

スケート競技(フィギュア) 令和7年11月 2日(日) 小瀬アイスアリーナ

スケート競技(スピード) 令和8年 2月11日(水・祝)

FOLKWOOD SKATE PARK 八ヶ岳 雨天中止

スキー競技 令和8年 3月15日(日) サンメドウズ清里スキー場

アイスホッケー競技 令和8年 3月28日(土)～29日(日) 小瀬アイスアリーナ

イ 山梨県スポーツ・レクリエーション祭の開催

「第1回全国スポーツ・レクリエーション祭」の開催を記念して、県民が気軽に参加でき、スポーツ・レクリエーションを楽しみながら、交流を深める場となることを目的に開催した。

(ア) 第37回実行委員会総会の開催

令和7年 4月8日(火) 武道館第1会議室

(イ) 第37回山梨県スポーツ・レクリエーション祭

令和7年 5月10日(土)、17日(土)、18日(日)

マスターズ陸上競技等19種目 小瀬スポーツ公園他

ウ 第62回山梨県一周駅伝競走大会の開催

スポーツ県やまなし宣言記念事業の一環として、県内各地区の代表チームによる県一周駅伝競走大会を開催し、スポーツの普及啓発を図った。

令和7年12月 6日(土)から7日(日) 参加17チーム

エ スポーツイベントの開催

各年齢層に応じたスポーツを楽しむ機会やふれあいの場を提供し、スポーツの楽しさと爽快感を体験するとともに、スポーツへの興味や関心を高め、スポーツを实践する動機づけにするような大会、イベントを開催した。

小瀬スポーツ公園	実施イベント日数	8日	参加者数	1,562人
----------	----------	----	------	--------

富士北麓公園	実施イベント日数	8日	参加者数	684人
--------	----------	----	------	------

(ア) ファミリースポーツフェスティバル

親子・祖父母と楽しめるスポーツをとおして、ふれあいの場とするとともに、家庭生活の中でスポーツに親しむ動機づけとするため令和7年5月6日(火・振休)に開催を予定して

いたが、雨天のため中止とした。

(イ) こどもスポーツフェスティバル

こどもが気軽に参加し、共に考え協力して行えるスポーツ大会をととして、スポーツの楽しさを知り、生涯にわたってスポーツに親しむ契機とした。参加者数 188人

(ウ) シルバースポーツフェスティバル

高齢者に大変人気の高いグラウンドゴルフの大会を開催することにより、高齢者が生涯にわたりスポーツに慣れ親しみ、健康的な生活を送れるための契機とした。

参加者数 1,705人

(エ) 利用促進スポーツイベントの開催

施設の更なる利用促進を図るため、民間事業者とタイアップし、様々なスポーツの体験や著名なアスリート等との交流を図るスポーツイベントを開催した。 (「スポくる！」等を開催)

オ プロスポーツクラブやトップアスリート、スポーツ団体との連携・共創

「みるスポーツ」の推進として、管理運営施設である小瀬スポーツ公園を中心に、トップスポーツを誘致・開催し、また、トップアスリートや著名人等を招聘し、数々のスポーツレッスンや講演会を開催し、多くの県民にスポーツへの興味を持っていただける機会を提供する。

(ア) 大学・企業との連携

県内大学・民間団体との連携を強化し、共催事業等を展開することにより、民間の持つノウハウ又はネットワーク等を活用した事業展開を行った。

a 山梨学院大学との連携

包括連携協定を締結している山梨学院大学との強固な協力関係のもと「スポーツで山梨の未来を創造する」各種事業に取り組んだ。

・スポーツイベント「スポくる！」において4ブースを出展

・インターンシップ(実習)スポーツ科学部 6人

b 民間企業との連携

スポーツ施設の多様な活用、スポーツを通じた地域連携・貢献、スポーツ推進のきっかけづくり等において、民間企業と協働して、取り組んだ。(「スポくる！」等を開催)

(イ) スポーツイベント「スポくる！」の開催

加盟競技団体をはじめとする各種スポーツ団体等と連携し、スポーツ参画人口の拡大を図るスポーツイベント「スポくる！」を県民の日記念行事にあわせて開催した。

令和7年11月16日(日) 小瀬スポーツ公園 JIT リサイクルインク スタジアム

参加者数 2,600人

カ スポーツ大会・スポーツイベントの誘致

トップスポーツクラブの試合をはじめ、日本を代表するトップアスリートや山梨にゆかりのあるオリンピックを招聘したイベントを誘致するとともに、スポーツ大会・スポーツイベントの開催に向けたサポート体制を整え、「みる」スポーツの普及を推進した。

キ スポーツ大会助成

(ア) 競技団体等主催大会等助成事業

関東大会・全国大会及び国際大会等の開催や本県選手の出場、活躍は本県スポーツの振興に大きく寄与するため、本県開催の関東規模以上の大会に助成した。

全国大会規模2大会、東日本大会規模1大会、関東大会規模11大会

(2) スポーツ教室及びスポーツセミナーの開催

ア 健康・体力づくり教室の開催

(ア) スポーツ健康づくり教室

生涯スポーツの必要性及び継続して行うことの大切さを理解してもらえよう、子どもから高齢者まで男女を問わず、生涯を通じて誰でもスポーツに親しむことができる世代別、目的別に運動をする機会を提供し、サークル活動等による自主的な活動への発展を促し、スポーツライフを支援した。

小瀬スポーツ公園 教室数 97教室 参加者数 4,288人

富士北麓公園 教室数 4教室 参加者数 192人

(イ) トレーニング室利用者証の発行・実技指導

a 利用者証の発行

トレーニング室初回利用者を対象に、安全に施設を利用してもらうためトレーニング室の利用説明を行い、利用者証を発行した。

利用証発行者数 4,583人

受付 随 時

発行料 無 料 (施設利用料別途)

b 体質改善プログラムの提供

運動の効果を客観的に評価・認識できるよう体組成測定器を用い、筋・脂肪割合、体組成成分、メタボリック情報等10項目について評価を行い、それに基づいて適切な運動プログラムを提供した。

実施者数 7,305人

体組成測定 随 時

測定料 測定のみ(結果説明、運動アドバイスを含む)200円/人

c 実技指導

利用者の目的に応じたトレーニングメニューを提供するとともに、機器の効果的な使用方法を指導し、トレーニング効果を高めた。

なお、健全な発育発達を考慮し、中学3年生からの利用とした。

実技指導実施者数 7,458人

実技指導 随 時

指導料 無 料 (施設使用料別途)

(ウ) 富士北麓公園フリーウエイトトレーニング室利用講習会

フリーウエイトトレーニング室利用者が、利用基準にしたがって施設を安全により効果的に利用してもらうため、講習会を開催し修了証を発行した。

開催回数 47回 参加者 67人

(エ) スポーツ体験コーナー

新たにスポーツをするきっかけを創出するため、軽スポーツやニュースポーツ等を体験できる「スポーツ体験コーナー」を令和7年 5月5日(月・祝)「ファミリースポーツフェスティバル」に合わせ計画していたが、雨天のため中止とした。

イ 健康・体力づくりセミナーの開催

スポーツを愛好している一般の人たちを対象に、身近なスポーツの技術・技能の紹介や健康・体力づくりの基礎的な知識を提供するセミナーを開催した。

親子で楽しもう「運動あそび教室」

講 師：山梨県スポーツ協会 管理課職員

期 日：令和8年 3月22日（日） 午前10時～12時00分

場 所：小瀬スポーツ公園武道館第2武道場

参加者：子ども22人 保護者16人 計38人

(3) スポーツボランティア活動の推進

ア スポーツボランティアの活用推進

本協会主催の事業において、主導的に「ささえる」スポーツへの参画の機会を創出し、また、山梨学院大学が構築したスポーツボランティアサポートシステムを活用し、大学生にスポーツの場、知識やスキルを高める機会を提供することを目的としてボランティアスタッフを募集した。

参加者数 30人

(4) 地域スポーツの活動の充実・支援

ア 指導者派遣事業の実施

地域・職場・サークル等が行うスポーツ活動を支援するため、要望に応じ指導者を派遣し、健康・体力づくりの指導を行った。また、高齢者の健康体力づくりのため、新たなシニアのライフスタイルを創造することを目的とし、「生きがいの創出」「新たな縁・絆の構築」「地域に貢献できる人材の育成」「健康の増進」に取り組んでいる「山梨ことぶき勸学院」に指導者を派遣し、教室の生徒を対象に運動指導を行った。 派遣数 49回 対象者 979人

イ 軽スポーツ用具の貸出事業の実施

地域・職場・サークル等が行うスポーツ活動に対して、軽スポーツ用具の貸し出しを行った。

小瀬スポーツ公園 貸出回数 172回 延利用者数 12,670人

富士北麓公園 貸出回数 20回 延利用者数 393人

ウ 指導者バンクの運用

やまなしスポーツ情報ネット内にシステム化されている「スポーツ指導者バンク」の運営を行い、スポーツ指導者の登録、紹介を行った。

(5) 地域スポーツ活動の推進

ア スポーツ振興ブロック会議の開催

スポーツの振興に関し、各地域の市町村のスポーツ関係者と地域の課題等について意見交換を行い、推進強化を図った。

富士・東部地区 令和7年7月11日（金）

都留市まちづくり交流センター 参加者65人

中北地区 令和7年7月14日（月）

小瀬スポーツ公園体育館 参加者85人

峡東地区 令和7年7月16日（水）

甲州市民文化会館 参加者67人

峡南地区 令和7年7月18日（金）

イ 山梨県スポーツ推進委員協議会との連携協働

各地域の県民がスポーツの生活習慣化できるような魅力ある事業を展開し、スポーツ拠点を拡充できるよう、山梨県スポーツ推進委員協議会との連携を図った。

ウ 山梨県スポーツ指導者協議会との連携協働

地域スポーツの振興及びスポーツの環境を整備するため、指導者の確保及び資質の向上を図るとともに指導者が各地域で活動できるよう、公益財団法人日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者の資格者が組織する山梨県スポーツ指導者連絡協議会と連携し、特別研修会など指導者の資質向上事業などに取り組んだ。

エ 総合型地域スポーツクラブとの連携協働・育成

(ア) 広域スポーツセンターの運営

山梨県が設置した広域スポーツセンターを受託運営し、総合型地域スポーツクラブの設立支援を行うとともに、永続的に充実した活動を行えるよう、県内33の総合型クラブに対して育成支援を行った。

総合型クラブ情報交換会

第1回	令和7年 6月24日(火)	小瀬スポーツ公園武道館
第2回	令和7年 9月30日(火)	小瀬スポーツ公園武道館
第3回	令和8年 2月24日(火)	東京エレクトロン韮崎アリーナ

また、日本スポーツ協会の「地域スポーツ推進体制基盤強化事業」を活用し、次の事業を行った。

a 親子フェスタ

楽しく身体を動かしながら運動・スポーツを地域住民に提供できるよう指導者の資質向上を図ることを目的に研修会を開催した。

令和7年10月18日(土)	鐘山スポーツセンター体育館	参加者 40人
令和7年11月22日(土)	市川三郷町生涯学習センター	参加者100人
令和7年11月23日(日・祝)	小瀬スポーツ公園補助競技場	参加者130人
令和8年 1月25日(日)	竜王小学校体育館	参加者 45人
令和8年 1月31日(土)	昭和町総合体育館	参加者 60人

b 総合型地域スポーツクラブによる子どもの運動推進事業

小学校の授業に総合型地域スポーツクラブの指導者を派遣し、子どもが楽しく身体を動かしながら運動・スポーツに親しむことで興味関心を持ってもらい、運動機会の確保につなげていくことを目的に開催した。

令和7年 7月 1日(火)～令和8年 1月31日(土)

各市町村の小学校 18校 参加者(小学生)2,306人

(イ) 総合型地域スポーツクラブ山梨(SC山梨)の連携・支援

山梨県と連携し、クラブアドバイザーとともに県内各市町村を訪問し、総合型地域スポーツクラブの状況把握を行うとともに、運営の助言及び指導を行った。

(ウ) 登録・認証制度の運用

令和4年度から開始した総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の運用を行い、令和7年度は、34クラブ中16クラブが申請し認定された。

a 総合型スポーツクラブ登録部会

令和8年 2月17日(火) 小瀬スポーツ公園武道館

b 総合型スポーツクラブ登録審査会

書類審査: 令和7年12月 2日(火) 小瀬スポーツ公園武道館

実地審査: 令和8年 1月17日(土) アストリースポーツクラブ

令和8年 1月19日(月) トラベッソスポーツクラブ

令和8年 1月26日(月) アバンソ総合型地域スポーツクラブ

令和8年 1月29日(木) ヴァンフォーレススポーツクラブ

(エ) 公認アシスタントマネジャー養成講習会の開催

クラブ運営のための諸活動をサポートするアシスタントマネジャーの資格取得ができる
公認アシスタントマネジャー養成講習会を開催した。

令和7年11月 8日(土)、9日(日) 小瀬スポーツ公園武道館 参加者6人

(オ) やまなし総合型クラブ交流イベントの開催

クラブ相互の交流と認知度アップを図るとともに、広く県民に参加を呼びかけ、スポーツ
実施率の向上を促す契機とするイベントを開催した。

令和7年11月23日(日・祝) 小瀬スポーツ公園補助競技場 参加者130人

(カ) 総合型地域スポーツクラブ山梨への助成

総合型クラブ交流事業の実施、組織の強化及び充実を図るための運営経費を助成し
た。

(6) 誰もがスポーツに親しめる機会の提供

専門的知識やノウハウ等の情報を有する山梨県障害者スポーツ協会のほか、各専門関係
団体と連携し、障がい者と健常者が共に参加できるイベント「3×3 FESTA KOSE」を開催し
た。参加チーム数 46チーム 参加者数 150人

4 競技スポーツの推進

(1) 第86回国民スポーツ大会の開催に向けた取り組みの推進

令和14年の第86回国民スポーツ大会の本県開催に向けて、山梨県と緊密に連携して準
備を進めている。

(2) 第81回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会の開催に向けた取り組みの推進

令和9年の第81回国民スポーツ大会の冬季大会スケート競技会本県開催に向けて、山梨
県と緊密に連携して準備を進めている。

(3) 競技力向上対策本部の運営

本県選手が国民スポーツ大会や各種大会等において優秀な成績を収めることができるよう
競技力の向上を図るとともに、県民のスポーツへの関心を高め、本県スポーツの発展に寄与す
るため、各種会議を開催するとともに、各種事業を行った。

ア 各種会議の開催

(ア) 本部会議(年4回)

第1回 令和7年 6月19日(木) 小瀬スポーツ公園武道館 第1会議室

第2回 令和7年 9月 2日(火) 小瀬スポーツ公園武道館 第1会議室

第3回 令和7年10月30日(木) 小瀬スポーツ公園武道館 第1会議室

第4回 令和8年 3月 3日(火) 小瀬スポーツ公園武道館 第1会議室

(イ) 理事長、事務局長、主任強化コーチ会議(年3回)

国民スポーツ大会出場競技団体の理事長、事務局長、主任強化コーチ等に対し、競技力向上に関する説明や研修を実施する。

第1回 令和7年 5月12日(月) 小瀬スポーツ公園体育館サブアリーナ

第2回 令和7年11月11日(火) 小瀬スポーツ公園武道館 第1会議室

第3回 令和8年 3月11日(水) 小瀬スポーツ公園武道館 第1会議室

イ 選手所属機関への訪問・合宿激励

本県の国スポ目標20位台、900点以上達成に向け、国スポ関東ブロック大会開催前を中心に、競技力向上対策本部委員が国スポ種目の競技団体に赴き、激励を行った。

ウ 競技団体個別会議

山梨県の競技力向上のため、対策本部委員と競技団体競技力担当者等が、強化事業推進上の諸課題や方針等について協議する個別会議を実施した。

令和7年10月27日(月)、29日(水)、11月12日(水)、令和8年2月9日(月)、
16日(月)、19日(木)、20日(金) 小瀬スポーツ公園武道館研修室

エ 競技団体強化組織推進

第86回国民スポーツ大会の開催を契機として国スポ各競技団体の強化推進を図り、県内外で評価されるような先進的かつ持続的な強化体制の構築を目指し、各種事業を行った。

オ 企業スポーツ連絡協議会との連携

本県企業スポーツの普及発展と、選手の競技力向上並びに積極的なスポーツの振興を図ることを目的に、山梨県企業スポーツ連絡協議会と連携し、毎年開催される国スポや各種大会で優秀な成績を収められるようサポートした。

カ スポーツ医・科学委員会との連携

競技力の向上を図るため、スポーツ医科学委員会と連携し、パフォーマンス向上を目指すための支援・サポート体制の充実やアンチ・ドーピング教育、国スポ開催時のスポーツドクター及びアスレティックトレーナーの会場配置等を行った。安全かつ効果的に競技力を向上させるために医学的・科学的視点から選手を包括的に支援する取組を強化することで、本県の競技力向上を図った。

(4) 競技団体等への支援

ア 国スポ候補選手の強化

(ア) 競技団体選手強化事業

国民スポーツ大会に向けての候補選手(指導者を含む)を対象とした強化事業に対し助成した。

イ 成年チーム指定強化事業

(ア) 重点チーム強化

国民スポーツ大会において優秀な成績を収めるため、8競技9チームの重点強化チームを指定し、強化事業に対し助成した。

ウ 指定チーム強化

成年選手の競技力の維持向上を目指して、10競技13チームの大学・企業・クラブチー

ムを指定し、強化事業に対し助成した。

エ 練習場確保事業

県立射撃場の整備凍結に伴う競技団体の練習場確保事業に対し助成した。

オ 海外派遣奨励金の交付

日本代表として世界選手権等の大会に海外派遣される個人・団体に対し交付した。

個人18人

(5) 国民スポーツ大会選手等の選定及び派遣

予選会を実施し、選手の選考を経て、本県選手団を派遣した。目標としていた天皇杯得点900点、20位代は達成できなかった。【天皇杯得点829.5点・36位】

ア 競技団体への啓発

(ア) 国民スポーツ大会競技団体事務担当者・監督候補者連絡会議の開催

競技団体の事務担当者及び監督に国民スポーツ大会の参加資格などへの理解を深めてもらうため、連絡会議を開催した。

令和7年 5月12日(月) 小瀬スポーツ公園体育館サブアリーナ

イ 第79回国民スポーツ大会関東ブロック大会

令和7年 6月19日(木)から8月31日(日) 群馬県

本部役員10人、監督・選手733人

ウ 第79回国民スポーツ大会

会期前1回目実施競技 【水泳・ビーチバレー・体操(競技・新体操・トランポリン)】

令和7年 9月 6日(土)から16日(火) 滋賀県

会期前2回目実施競技 【自転車】

令和7年 9月21日(日)から10月 1日(火) 滋賀県

本大会 令和7年 9月28日(日)から10月 8日(水) 滋賀県

<開会式> 令和7年 9月28日(日)

<閉会式> 令和7年10月 8日(水)

本部役員26人、監督・選手348人

エ 第80回国民スポーツ大会

冬季大会関東ブロック大会 (アイスホッケー)

令和7年12月 5日(金)から 7日(日)(少年男子) 群馬県(山梨参加なし)

令和7年12月12日(金)から14日(日)(成年男子) 群馬県

冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会

令和8年 1月31日(土)から2月8日(日) 青森県

本部役員11人、監督・選手38人 【天皇杯6位、皇后杯4位】

冬季大会スキー競技会

令和8年 2月13日(金)から18日(水) 青森県

オ 日本スポーツマスターズ2025への派遣 愛媛県

令和7年 9月 8日(月)から12日(金)(ゴルフ) 選手6人

令和7年 9月20日(土)から23日(火・祝)(中心会期) 監督・選手計66人

(6) スポーツ医・科学サポートの実施

ア 医学的・科学的サポートの実施

(ア) 医学的サポート

国民スポーツ大会に参加する選手(含:関東ブロック大会)から提出された健康調査票を基に、メディカルチェックを実施し、選手の健康管理を行った。

(イ) 科学的サポート

栄養関係、心理関係、コンディショニング関係などの分野について、国民スポーツ大会参加競技団体を対象に測定、調査、分析し、指導・助言を行った。

(陸上パラアスリートに対し、メンタルサポートと動作解析についてサポートを実施。)

また、令和7年度は、結団壮行式に合わせ「やまなしアスリートサポートデイ2025」を開催。栄養ブース、メンタルサポートブース、アンチ・ドーピングブース、女性アスリートサポートブースの4ブースを設け120人が参加した。

イ スポーツ医・科学セミナーの開催

国スポ強化選手、指導者及びスポーツ愛好者等を対象に、スポーツ医・科学委員会と連携し、健康の保持増進や体力づくり、競技力の向上等を目的としたスポーツ医学やスポーツ科学のセミナーを開催した。

令和8年 2月23日(月・祝) 小瀬スポーツ公園武道館第1会議室

<第1部> 講演①:「女性アスリートのからだとコンディション管理」

講演②:「女性アスリートに必要な栄養・食事」

<第2部> パネルディスカッション 「女性アスリートを支える“チームの力”」

参加者:国スポ実施競技監督・コーチ、部活動指導者他 30人

ウ アンチ・ドーピング講習会の開催

令和5年度から国民体育大会におけるアンチ・ドーピング教育が義務かれたため参加する選手・指導者等を対象にアンチ・ドーピングに関する講習会を実施した。

令和7年 6月29日(日) オンライン開催 参加者 競技74人

令和7年 7月10日(木) 武道館第1会議室 参加者 競技36人

エ 国民スポーツ大会への帯同

国民スポーツ大会参加時にスポーツドクター並びにアスレティックトレーナーを帯同させ、選手の緊急医療時の対応やドーピング関係薬物の対応を行った。

(7) ジュニアアスリート事業の推進

ア 第86回国スポを見据えた競技力強化

本県での2巡目の開催となる令和14年の第86回国民スポーツ大会の開催について、選手の発掘・育成を計画的に強化・育成した。

(ア) ターゲットエイジ発掘事業

各競技団体が競技の普及や選手発掘を目的に小学生から中学生を対象とした個別発掘するため、35競技団体が事業を実施する経費の一部を助成した。

(イ) ターゲットエイジ育成事業

国民スポーツ大会正式競技である41競技において発掘したターゲットエイジを対象に技術向上のための練習会や国民スポーツ大会に近年導入された新種目及び女子選手の強化が必要な競技を対象に重点強化するため、35競技団体が事業を実施する経費の一部を助成した。

(ウ) 指導者養成事業

国民スポーツ大会の監督資格となる指導者資格保有者を確保するため、11競技団体27人の資格取得に係る経費の一部を助成した。

5 スポーツ環境の整備

(1) 子どものスポーツ活動のための人材養成・育成

ア スタートコーチ(ジュニア・ユース)養成講習会

地域における単位団活動の中心的指導者を養成するスタートコーチ(ジュニア・ユース)養成講習会を開催した。

(集合学習)

第1回	令和7年 8月30日(土)	小瀬スポーツ公園 武道館第1会議室	46人
第2回	令和7年10月18日(土)	小瀬スポーツ公園 武道館第1会議室	19人
第3回	令和7年12月20日(土)	小瀬スポーツ公園 武道館第1会議室	56人

イ スポーツ少年団指導者研修会

指導者等の資質向上と指導者相互の連帯を図るため、研修会を開催した。

令和7年12月 7日(日)	笛吹市スコレーセンター	59人
令和8年 1月31日(土)	鐘山体育館	18人

ウ 関東ブロックスポーツ少年団指導者研究協議会

関東ブロック各都県のスポーツ少年団指導者の相互の連携と資質・指導力の向上を図るための研究協議会を開催した。

令和7年11月 1日(土)から2日(日)	群馬県高崎ワシントンホテルプラザ	
参加者	関東各都県	47人

エ スポーツ少年団リーダーの養成

リーダー会の育成や指導者協議会との連携により、将来の指導者を養成するとともに、少年団の円滑な活動の推進を図った。

(ア) ジュニア・リーダースクールの開催

単位団において、団員の模範となって活動するジュニアリーダーを養成した。

令和7年11月22日(土)から23日(日)	緑が丘スポーツ公園	
参加者	9人	

(イ) 初級リーダー研修会「シン・キャプテンミーティング」の開催

小学5年生から高校生の次期キャプテンや団の中心になる者を対象に、リーダーシップや仲間との協力の大切さなどを学ぶ場として山梨県初級リーダー研修会「シン・キャプテンミーティング」を開催した。

令和8年 2月21日(土)	小瀬スポーツ公園 体育館	
参加者	65人	

(ウ) 関東ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会

関東ブロック各都県のスポーツ少年団リーダーの相互の連携と資質の向上を図るための研究大会へ派遣した。

令和7年10月18日(土)から19日(日)	東京都	
派遣指導者	1人	団員 2人

(エ) リーダーの派遣

日本スポーツ少年団シニア・リーダースクール

令和7年 8月 6日(水)から9日(土) 静岡県

派遣なし

全国スポーツ少年団リーダー連絡会

令和7年11月15日(土) 東京都

指導者 1人

(オ) 山梨県スポーツ少年団リーダー会への助成

組織の強化充実並びに運営経費を助成した。

(2) スポーツ活動のための人材養成・育成

ア 公認スポーツコーチングリーダー養成講習会

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等でのコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供することができる指導者を養成する講習会を開催した。

令和7年12月 6日(土) 小瀬スポーツ公園武道館第1会議室

参加者 15人

イ 公認コーチ1・2養成講習会

地域において、子どもたちや初心者を対象に、競技別の専門的な知識を活かし、個々の指導対象に合わせた指導が可能となる指導者を養成する講習会を開催した。

コーチ1実施競技: バレーボール 参加者48人

コーチ2実施競技: 実施なし

ウ 公認スポーツドクター養成講習会への受講者推薦

スポーツ医・科学委員会との連携と医師の協力のもと、スポーツドクターの確保のため、日本スポーツ協会開催の養成講習会へ6人の推薦を行った。

エ 公認アスレティックトレーナー養成講習会への受講者推薦

スポーツ医・科学委員会及び競技団体と連携を図り、アスレティックトレーナーの確保のため、日本スポーツ協会開催の養成講習会へ2人の推薦を行った。

オ スポーツ指導者研修会の開催

公認スポーツ指導者の資質の向上と活動促進、指導者の連帯感を深めた。

第1回 令和7年 6月28日(土) 小瀬スポーツ公園武道館 参加者210人

第2回 令和7年 9月 6日(土) 大月市民会館 参加者 58人

第3回 令和8年 1月31日(土) オンライン開催 参加者 84人

カ 山梨県スポーツ指導者協議会への助成

公益財団法人日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者が県内各地域で活動できるよう資質の向上等を行う山梨県スポーツ指導者協議会へ、組織の強化充実並びに事業経費などの助成を行った。

(3) 拠点となるスポーツ施設の管理運営

県民誰もが気軽にスポーツに親しみ、身体を動かすことの楽しさや爽快感、達成感を分かち合うことで、健康で活力ある生活を送ることができるよう、スポーツ施設の機能を十二分に活用し、スポーツの「機会」「場」「サービス」を提供した。

県有体育施設の指定管理者として、利用者の視点に立った運営でサービス向上に努めると

ともに、コスト意識をもって経費の削減に取り組んだ。さらに施設の持つ機能を最大限に発揮できるようにスポーツを「する」「みる」「ささえる」の喜びや楽しさを県民が享受できるような施設運営を行った。

また、日常点検、定期点検、効果的な修繕を実施することで「安心・安全」にスポーツに親しめるような施設管理を行った。

さらに、令和14年に開催予定の本県での2巡目国スポにおいて、競技会場として活用されることなどを見通し、県と協議のうえ、改修・修繕を実施した。

・小瀬スポーツ公園	626,090人(前年度599,809人)
・富士北麓公園	124,507人(前年度133,551人)
・緑が丘スポーツ公園	108,324人(前年度123,338人)
・八代射撃場	1,069人(前年度885人)

(4) 生涯スポーツの推進を支えるスポーツ施設の整備と管理運営

幅広い年齢層や多様化するスポーツ環境に適応するため、利用方法の簡便化や見やすいサイン表示に努めるとともに、日常点検、定期点検、効果的な修繕を実施した。

(5) 大規模スポーツ施設の整備

施設の適切な管理運営(定期的な点検・メンテナンスや利用者ニーズの把握等)から得られる情報を県と共有することで施設の改修、長寿命化のフォローを行い、利用者が「安心・安全」に、競技者が「最高のパフォーマンス」を発揮できる施設としての整備と維持管理を行った。

(6) 境川自転車競技場の管理運営 7,600人(前年度 6,639人)

本県におけるサイクルスポーツの拠点施設として、サイクルスポーツ文化が定着できるよう柔軟な管理運営に取り組んだ。

(7) スポーツ情報の発信

ア インターネットの活用

- ・インターネットを活用し、管理施設の情報、スポーツ教室やイベントの紹介を行った。
- ・やまなしスポーツ情報ネットのスポーツ新着情報や大会情報等の更新を行った。
- ・SNSの活用としてInstagramを用い、国民スポーツ大会の情報発信をはじめ、本協会の各種事業の告知や施設管理情報を県民へ発信した。また、拡散力の強いXも活用し、施設利用者の更なる獲得及び利用促進を図った。

イ 広報誌の活用

- ・情報交換と提供の場としてスポーツ協会広報誌「スポーツやまなし」とスポーツ少年団広報誌「わかば」を発行した。
- ・各管理施設における情報や健康増進情報等を掲載した広報誌「Lively 小瀬」を毎月、「Lively 北麓」を年間4回発刊した。

ウ スポーツ絵画・写真コンクールの開催

スポーツの絵画・写真を通して、スポーツへの関心を高めるとともに、県民のスポーツに対する意識の向上を図った。

【提出数】絵画:72点 写真:12点 合計:84点

【表彰式】令和7年11月16日(日)陸上競技場 スポーツ体験型イベント「スポくる！」内

(8) 各種スポーツ表彰制度の運用

ア スポーツ協会表彰

体育・スポーツに尽力された体育功労者に対し、その活動への感謝と功績を讃えるため表彰を行った。

また、全国大会や世界大会に出場し優秀な成績を残した県内選手・指導者に対し、その功績と今後の活躍を期待して表彰を行った。

体育功労者 72人、特別優秀選手 7人、優秀選手・団体 58人 14チーム、
優秀指導者 2人、奨励賞個人・団体 9人 1チーム

イ スポーツ少年団表彰

永年に亘り、団活動を活発に行い他の模範となるような単位団並びに団活動に尽力しその功績が顕著な指導者に対して表彰を行った。

優良単位団1団、優秀指導者4人

(9) スポーツツーリズムの推進

指定管理施設を活用した新たなスポーツイベントの開催やスポーツ合宿の誘致に積極的に取り組み、県内外との交流機会の増加・創出による地域の活性化を推進した。富士北麓公園では、富士山などのロケーションを活かしたスポーツイベントの積極的な受け入れや協力、また、合宿利用の推進を図るとともに、地元の観光・食のガイドマップを提供するなど、スポーツツーリズムを推進した。

6 国際スポーツ交流の推進

(1) スポーツ少年団のスポーツ交流

ア 日独スポーツ少年団同時交流

日独の友好と親善を深め、国際的能力を高めるとともに、スポーツ少年団の発展に寄与するため、両国のスポーツ少年団の優れた青少年及び指導者の相互交流を行った。

受入事業：令和7年 8月 8日（金）～12日（火）

受入市町村：南アルプス市・中央市・市川三郷町・身延町・南部町・富士川町・昭和町

(2) 競技スポーツ交流

ア 日中スポーツ交流

日中両国政府により実施された2007「日中文化・スポーツ交流年」を契機として、両国の代表団員が互いの国を訪問し、スポーツを中心とした様々な交流を行うため実施しているが、実施を希望する団体がなかった。

イ 日韓スポーツ交流

2002年ワールドカップ・サッカー大会の日韓共同開催決定を契機として、両国の代表団員が互いの国を訪問し、スポーツを中心とした様々な交流を実施しているが、実施を希望する団体がなかった。

7 安心してスポーツに取り組めるスポーツ環境の推進

(1) スポーツ界の透明性、公平・公正性の向上

ア フェアプレイの推進

スポーツを真に楽しく行う上では欠かせないフェアプレイを推進するため、日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーン運動を推進し、「フェアプレイニュース」の

掲示や、主催イベントの要項等へのキャンペーンロゴの掲載等、スポーツ活動のあらゆる場面で協力及び実践の呼びかけを行った。

イ スポーツ・インテグリティ(誠実性・高潔性)の確保

スポーツ団体における「コンプライアンス(法令順守)」の強化と「ガバナンス(組織統治)」の構築のため、ガバナンスコードの順守に努めるとともに、日本スポーツ協会の加盟団体規程に基づき、各種規程等の再整備に取り組むとともに、加盟団体にもガバナンスコードの順守を促した。

ウ 暴力等不適切行為の撲滅

選手同士また選手と指導者がお互いを信頼してスポーツを行えるように、いじめや暴力・暴言、セクハラ等、これまでの指導方法の中に起こりうるハラスメントについて注意喚起を行うとともに、日本スポーツ協会が取り組んだ「No! スポハラ」運動を行うとともに年度当初の加盟団体会議や研修会等において活動について周知を行った。

また、スポーツにおける暴力行為等に関する相談及び問い合わせに対応するために設置した相談窓口を運営した。

相談件数 4件

エ アンチ・ドーピングの啓発

(ア) アンチ・ドーピング講習会

薬物乱用、誤用の認識を高め、健全なスポーツ活動を推進するため、講習会を開催した。

第1回 令和7年 6月29日(日) オンライン開催 参加者 競技74人

第2回 令和7年 7月10日(木)

小瀬スポーツ公園武道館第1会議室 参加者 競技36人

(イ) 競技別アンチ・ドーピング講習会の開催

選手が多く集まる練習会や合宿に出向く講習を計画したが、実施を希望する団体がなかった。

オ スポーツ仲裁自動応諾条項採択の周知・促進

スポーツ関係団体が、スポーツに関するルールへの透明性を高め、健全なスポーツの発展に寄与していく組織づくりの機会になるよう、日本スポーツ仲裁機構の仲裁自動応諾の採択を加盟団体に対して働きかけた。

(2) 補償制度の推進

ア スポーツ安全保険の加入促進

関係スポーツ団体に対し、団体活動中に発生する怪我や損害等に備え、安心してスポーツが行えるようスポーツ安全保険への加入を促進した。

イ スポーツ傷害見舞金制度の活用

スポーツ大会等に参加した選手等で負傷又は死亡した者に対し見舞金の給付を行った。

ウ 主催者賠償責任保険の継続加入

主催事業で損害賠償事故が起きた場合に補償できる体制を整えるため、主催者賠償責任保険へ継続加入した。

(収益事業等)

Ⅲ 利用環境・効率の向上

1 各種サービス事業

(1) レストラン・売店等の運営

公園来園者に対する飲食等の便宜供与のため、体育館レストラン・売店における飲食の提供、物品の販売を行うとともに、スケート靴等の貸し出しに係る斡旋業務を行いスポーツの普及支援の担い手として事業を展開した。

ア レストラン(カフェ)の運営

来園者へ飲食等を提供するため、専門業者「WORLD CAFE小瀬スポーツ公園店」へ委託し運営した。

・営業時間 午前10時から午後6時まで

※通常は火曜休業(祝日の場合は営業)

・販売品目 パニーノサンド、ピザ、クロッフル、サラダ、コーヒーなど常時約62品目

・営業日数 年間291日

・客数 15,827組

・提供食数 37,392食

イ 売店の運営

イベントや大規模大会等の開催時に売店を開設し、飲食物の販売を行う他、各施設の受付においてスポーツ用具(テニスラケット他)の貸出、テニスボール等の販売等施設利用者のニーズに応えた売店運営を行った。

・販売品目

臨時売店:焼きそば、飲料等の販売

5店 年間延べ200日(回)

受付販売:バスケットボール等の貸出、テニスボール等の販売

ウ 自動販売機の設置

管理施設内に自動販売機を設置し、清涼飲料水・乳飲料・アイス及び菓子類等の販売を行った。

・自動販売機の設置台数

小瀬スポーツ公園 42台(プール開放期間中は4台追加)

緑が丘スポーツ公園 10台(大体育館改修工事に伴い、10月～6台休止)

富士北麓公園 7台

境川自転車競技場 2台

八代射撃場 1台

エ スケート靴の斡旋

小瀬アイスアリーナにおいて、利用者にスケート靴の貸し出し業務を行った。

・貸靴種目 フィギュア他3種 約800足

・貸出実績 小瀬アイスアリーナ 個人12,189足/年(前年度実績10,605足/年)

団体5,035足/年(前年度実績4,571足/年)

オ ジョギングハウスの活用

ウォーキングやジョギングで小瀬スポーツ公園を訪れた方々が、気軽に利用できるよう環

境を整備した。

カ 施設利用者への還元事業の実施

施設の利用促進と、日頃からの施設利用者に対する還元事業として、各種イベントを企画し、利用者が楽しめる施設運営を行った。

・クリスマス、バレンタイン、ホワイトデー企画（利用者へプレゼント配布）

キ 福利厚生事業の支援

職員が安心して働ける職場づくりの推進を図るため、職員互助会の諸事業（文化・スポーツ施設等利用等）に対し支援を行った。

2 利用効率の向上

(1) 管理施設の有効活用

本協会が管理する各施設の利用効率向上のため、公益目的（スポーツ）以外の利用についても、サービスの向上と利用促進に努め施設の有効活用を図った。